



交流会ではタンザニアの打楽器「ジャンベ」も登場した

甘 楽

# タンザニアの人優しい

## 小中学生が技術者と交流

日本のかんがい技術を学ぶために来日しているタンザニアの技術者8人が5日、甘楽町を訪れ、地元の小中学生8人と交流した。同町上野のNPO法人自然塾寺子屋が「国際寺子屋 タンザニアの人とお話ししてみよう！」と題して開催した。

一行は始めに国名勝「楽山園」(同町小幡)を見学し、観光ガイド

の案内で大名庭園の景色を楽しんだ。茶室では甘楽二中3年の中山かれんさんから作法を教わり、抹茶を味わった。

武家屋敷や雄川堰の取水口を見た後は、近

くの町休憩所「信州屋」に移動。交流会で生徒が日本の良いところを聞くと、道路などインフラ整備が挙げられた。生徒は逆に好きな食べ物や日本の踊りなどについて聞かれ、これに返答した。

甘楽二中1年の高橋輝君は「優しい人ばかりで楽しかった。すごくいい体験ができた」と笑顔だった。タンザニア人の男性は「一緒に楽しい時間を過ごしてくれてありがとう。いつかタンザニアにも来てください」と感謝していた。